

ベラルーシ公開情報取りまとめ

(2020年6月2日～6月8日)

2020年6月10日
在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

●新内閣を公表(6/4)

●米国、ベラルーシに人道支援を実施(6/5)

●ベラルーシ向け米国産石油、リトアニア・クライペダ港に到着(6/6)

【ルカシェンコ大統領動静】

●モギリョフ州を視察(6/6)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

・モギリョフとブレストは、豊かさにおいて、ゴメリやヴィテプスク、グロドノと異なり、遅れていた。しかし、モギリョフとグロドノが再生し、多くのことが為された時が来た。とはいえ、まだ足りない。

・製造業に目を向けて欲しい。審査を行い、活動が行われていない製造拠点をどのように活用していくか決めるよう要請する。製造拠点を失ってはならない。投資家は見つかる。喜んでモギリョフに来て、働かだろ。 (6/6 大統領府公式ホームページ)

●オルバーン・ハンガリー首相と会談(6/5)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

・私は、過去のハンガリーとソ連の協力の可能性と潜在性を良く理解している。ベラルーシとハンガリーの貿易経済、政治関係の水準は、両国の潜在的可能性を満たしていない。二国間貿易高である255百万ドルは、あるべき数字ではない。我々は、二国間だけでなく、EUとユーラシア経済同盟という二つの大きな経済圏の貿易高を拡大するため、二国間の可能性を活用する必要がある。

・ハンガリーは、ベラルーシにとって最も近いEU内のパートナーである。ハンガリーは、我々を理解し、EUとの関係深化を助けている。ここ数年で、大きく関係が改善し、協力が実用的で平等、そして生産的なものとなった。また、我々は東方パートナーシップの発展に関心がある。

・二国間の経済協力は発展している。例えば、電車製造案件である。ベラルーシで製造した部品をハン

ガリーに輸出した。ハンガリーの環境に優しい技術への移行を考慮し、電気バス等の機械製造分野での協力は有望である。

・我々は、原発建設で反発に遭っている。ハンガリーでは、ロシアの参加の下、パクシュ原発の建設が行われている。我々はこれらの反対に対し共に適切かつ厳格な対応をしていこう。ベラルーシは、我々のエネルギー政策に関する外部からの影響を与えようとする試みを許容しない。そして、我々は、安全性、開放性、透明性に向け最大限取り組むことを保証する。 (6/5 大統領府公式ホームページ)

●新内閣を公表(6/4)

変更のあったポストは以下の通り。()内は前職。

首相 ゴロフチェンコ(国家軍需産業委員長)

第一副首相 スノプコフ(駐中国ベラルーシ大使)

副首相 スポチン(ユーラシア経済委員会・工業・農産複合体理事)

財務相 セリベルストフ(財務省第一次官)

産業相 パルホムチク(ベラズ社長)

情報相 ルツキー(国営テレビ局 STV 総裁)

住宅・公共事業相 ヘメリ(天然資源・環境保護省次官)

建築・建設相 パルハモビッチ(モギリョフ州執行委員会副議長)

国家資産委員会委員長 マトゥセビッチ(経済省次官)

(6/4 大統領府公式ホームページ)

●内閣総辞職を公表(6/3)

(6/3 大統領府公式ホームページ)

●内閣改造に関する会議(6/3)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

・本日の議題の基本的な問題に関する決定を行う前に、あなた方と相談したい。新内閣の組閣についてである。これについては既に述べてきた。その指示を出し、あなた方はこの問題に取り組んできた。現職大統領は、大統領選挙前に常に予め政府を決定し、人々が賛否を投票する際に、誰が国家の社会経済発展に関わる喫緊の問題解決に取り組むのか分かるようにすべきだと私は表明していた。

・本会議の参加者は、多くの協議を実施し、現内閣や新たな候補の研究を行い、昨日この問題に関する提案を行った。しかし、新内閣の組成に大なり小なり関係を持ち、大統領に提案を行ったあなた方と、決定を行う前に、もう一度相談をしたい。そして、誤った判断がないよう、未来の政府の構成の決定をだいたい以前から開始していたことを念押ししたい。確か約半年前からであった。

・当時、政府に新たな閣僚が来た。前任の大臣は、本人の異動希望や、職務の不一致を理由として交代となった。病気やそれ以外の理由で、より仕事量の少ない職務に退いただけである。我々は半年をかけ新たな政府を作り上げた。そのため、内閣改造による革命が起こると期待することはない。

・政府構成の大規模な変化は、良くないことだろう。なぜならば、全世界で、全ての国家において社会の重大な変化を起こした、未曾有の経済危機の時代に突入したからである。この危機の影響は、非常に深刻なものであろう。現状を鑑みるに、政府の急激な取り壊しや、閣僚の全入替は、不適切であろう。そして、その必要もない。現在の政府において上手くアピールをし、悪くない働きぶりをした新たな世代の指導者達が成長した。何故彼らを代える必要があるのか。彼らは働くことができる。今日の危機的状況下でその作業量をこなせないものは、代える必要があり、他の職務に送るべきであろう。

(6/3 大統領府公式ホームページ)

●ゴロフチェンコ国家軍需産業委員会委員長の報告

聴取(6/2)

ルカシェンコ大統領は、国家軍需産業委員会傘下の企業・組織の活動状況と発展の方向性に関し、聴取した。ミサイル製造を含む軍事開発分野の焦眉の問題について協議した。

(6/3 大統領府公式ホームページ)

●アナトリー・シバク・ミンスク市執行委員会委員長と会談(6/2)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

・ミンスク市の都市建設計画について協議したい。特に、多目的施設「ミンスク・ミール」の建設計画はどうなっているだろうか。またショッピングモールや住宅、各インフラの建設状況も伺いたい。

・次にベラルーシ国立歴史博物館について、新たな博物館を建設するのか、あるいは、現存の博物館を修復するのか、拡張するのか。これらはミンスク市執行委員会がイニシアチブを取ったものであろう。私は協議の用意がある。

・さらに、多目的医療施設の建設についても伺いたい。多目的医療施設を建設するのか、否か。首都の保健制度を改革するのか。今日、すぐに建設するわけではないが、将来を見据える必要があろう。

(6/2 大統領府公式ホームページ)

●ハイテク畜産生産事業に関する会議(6/2)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

・本事業は、高効率な家畜飼育に特化しており、これによって畜産業、その他分野に多大なる効果をもたらす。ミンスク近郊に設立する企業は、近く稼働開始予定のオストロヴェツ原発第一ブロックや、宇宙開発プロジェクトと似ている。つまり、最高の技術と関連している。これらの案件に、ハイテクパークやデジタル国家を加えることもできる。これらは、我々の未来である。

・これらの案件によって未来を覗くことができる。より大規模に、広く行いたいと思う者もいるが、資金が必要である。中国との協力の下、習近平国家主席との合意に基づいて本案件を実施する。今年、または来

年中に、生産を開始する予定である。
(6/2 大統領府公式ホームページ)

●パシニャン・アルメニア首相と電話会談

ルカシェンコ大統領は、パシニャン首相の誕生日に祝意を述べ、両者は両国の新型コロナウイルス対策の情報交換や二国間協力に関する協議を行った。
(6/2 大統領府公式ホームページ)

外交

●スノプコフ駐中国・ベラルーシ大使、リ・シャオビン中国商務部国際経済協力局長と会談(6/8)

両者は、中国融資によるミンスク市内で建設される国立サッカー場、プールの建設準備について協議を行った。両者は、全ての準備作業が完了し、両施設の建設作業が事実上開始されたことを確認した。また、国立サッカー場は北京都市建設社が、プールは北京エンジニアリング建設会社が建設請負業者として決定された。

スノプコフ大使は、新型コロナウイルス感染拡大にもかかわらず、作業を止めることなく、積極的な準備作業を進めたことに謝意を述べ、中国によるベラルーシへの技術経済支援が社会的意義を持っており、中国とベラルーシの友好を象徴している、と強調した。また、第一副首相(注:スノプコフ大使は6月4日付で第一副首相に指名された)として国立サッカー場、プール建設案件の管理を継続すると注意を向けた。2016年～2019年において、二国間の投融資案件は11件が完了済みであり、総額、約2億ドルに上る。また、準備作業が行われている投融資案件が7件ある。

リ・シャオビン局長は、一帯一路に賛同した最初の国の一つであり、戦略的パートナーであるベラルーシにおける案件の責任と優先度を強調し、両国首脳が二国間共同案件に大きな注意を向けていると指摘した。また、同局長は、「新型コロナウイルス感染拡大においても、非常に大きな準備作業が行われ、建設の段階に入ることができた。目的は、ベラルーシにとって模範となる施設を建設し、両国の信頼に応えるこ

とである。」と述べた。
(6/8 ベルタ通信)

●ダブキユナス外務次官、ヴィシュネヴェツキー国連ベラルーシ事務所所長と電話会談。

両者は、国連・ベラルーシ間の2021年～2025年の協力について協議を行った。
(6/5 ベラパン通信)

●米国、ベラルーシに人道支援を実施(6/5)

米国欧州軍は新型コロナウイルス対策に向けた人道支援としてベラルーシ軍事医療センターにレスピレーター付きマスク1300個、保護メガネ200個を送付した。
(6/5 ベラパン通信)

●マケイ外務大臣、アランチャ・ゴンザレス・ラジャ・スペイン外務大臣と電話会談。

両者は、二国間の貿易・経済協力、ベラルーシ・EU間の相互協力、新型コロナウイルス対策に関して協議した。
(6/4 ベラパン通信)

●ポーランド、ベラルーシへ2回目の人道支援物資送付を実施。

今回の人道支援物資は、貨物トラック47台、総量300トンに登り、ポーランド史上最大の人道支援となる。人道支援に含まれるのは、医療用マスク、医薬品、検査キット、個人保護用品、人工呼吸器。
(6/4 ベラパン通信)

●ミシュステン露首相、ルマス前首相と電話会談(6/4)

ミシュステン露首相は、ルマス前首相(注:6月4日付で解任された)に対し、これまでの共同の作業に関し謝意を述べ、健康を祈った。
(6/4 ベラパン通信)

●駐ベラルーシ米国大使館、英国大使館、EU代表部がベラルーシ政府に対し、安全で、平和な、かつ自

由で、平等な選挙実施のための必要な措置を要請する共同声明を発表。

(6/3 ベラパン通信)

●ドイツ・ベラルーシ戦略協議グループ、テレビ会談を実施(6/2)

ベラルーシからはクラフチェンコ外務次官が、ドイツからはジベルト・ドイツ外務省東ヨーロッパ・東欧・カフカス・中央アジア全権が参加し、政治、安全保障、経済、エネルギー、デジタル化、環境分野における二国間の協力の拡大について協議された。

(6/2 ベラパン通信)

●国連、小児病院や児童向け社会施設に対し、総額15000ドルの物資供給支援を実施。

(5/29 ベラパン通信)

経済

●ベラルーシ向け米国産石油、リトアニア・クライペダ港に到着。

(6/6 ベラパン通信)

●ベルネフチェヒム社、アゼルバイジャン、サウジアラビアと石油調達の長期契約を締結する意向を公表。

(6/6 ベラパン通信)

●ロスアトム社、新型コロナウイルス感染対策のため専門家をオストロヴェツ原発に派遣。

5月26日時点で、オストロヴェツ原発作業員のうち陽性患者数は18名、第一接触グループとして自己隔離措置を行っている者は81名であった。ベラルーシ・エネルギー省は、オストロヴェツ原発の作業は、通常通り行われていると強調した。

(6/6 ベラパン通信)

●ベラルーシの金準備高、2020年5月に3.7百万ドル減少し、6月1日時点で7879.3百万ドル。

(6/5 ベラパン通信)

●ベラルーシ・エネルギー省、「ベラルーシは、ガス分野において、ロシアの同僚と生産的な対話ができると期待している。」

同省報道部によれば、6月上旬にミレル・露国営エネルギー企業ガスプロム社会長に、2020年のガス供給条件、2021年以降の価格算出方法に関する書簡を出した。書簡において、ベルトップガス社、ナフタン社、ガスプロム・トランスガス・ベラルーシ社間にガス価格決定に不一致がある、と強調され、不一致の解消のためガスプロム・トランスガス・ベラルーシ社はベルトップガス社にガス価格算定方法を開示する必要性があると述べている。

(6/5 ベラパン通信)

●EY、ベラルーシ国営企業に対する強制的口座変更に関し、懸念を表明。

パーベル・リャシェンコ EY ベラルーシ事務所所長は、「ベラルーシ国家組織による傘下の国営企業に対する民間銀行から国営銀行への強制的口座変更は、ベラルーシの投資環境に大きな衝撃を与え、投資家の中長期的な期待と行動を阻害し、国家の銀行システムの安定性に影響を及ぼす。融資コストの上昇、国営企業損失の拡大、サービスの低下のリスクがある。」と述べた。

(6/3 ベラパン通信)

軍事

●集団安全保障条約加盟国防衛相会議(6/7)

参加者は、2020年に予定されている共同演習の予定について協議を行った。

(6/9 ベラパン通信)

(了)